

# 「笑顔」

学校は、何よりもまず、自分の気持ちをきちんと聞いてもらえる環境にあることが大切です。子どもが、安心して笑顔で生活できる場所になるように、「(自分の)個性が出せる」「(他人の)個性を認める」「(お互いの)個性を伸ばし合える」という、三つのステップを紹介します。

	<b>H o p</b> 【個性が出せる】	<b>S t e p</b> 【個性を認める】	<b>J u m p</b> 【個性を伸ばし合える】
	<p>自分の学校（学級）は、子どもが自分の気持ちを話そうとしたとき、安心して話せる場所になっていますか。人目を気にして自分の思いが出せずにいる子どもはいませんか。人は、自分の発言や行動が、周りから受け入れられていると感じたとき、自然に安心の笑顔が出てくるのではないのでしょうか。まずは、子どもが、自分の気持ちを安心して話すことができるような環境づくりをしてみましょう。</p>	<p>安心して自分を出せるようになってきたら、次は、友達の思いや考えを共感的に受け止めることを基本として、友達の個性を認めることに取り組みましょう。いろいろな友達との関わりの中で、お互いの個性を理解し、お互いを尊重することの大切さに気付かせます。そうすることにより、友達に対する共感の笑顔が生まれるでしょう。</p>	<p>お互いの持ち味や個性を認め合う雰囲気が出てきたら、「集団の力を利用して個性を伸ばす」という視点に立った働き掛けをしていきましょう。それぞれの個性が一つになって、集団としての目標を成し遂げたときや、普段とは違った集団の中で、自分の個性を発揮し、認められたとき、感動の笑顔が自然と広がるでしょう。</p>
<b>教員の働きかけ</b>	<p>①学級開きや授業の中で、教員が率先して自分の思いや体験談など伝え、自己開示していくことで、何でも言い合える雰囲気を自ら作り出す。</p> <p>②学級活動や教科の授業、朝、夕の短学活などを有効に活用し、子ども全員が自己開示できる場면을意図的につくる。</p> <p>③自分たちのクラスに必要な聞き方のルールやマナーを考えさせる。</p>	<p>①子どもが個性や強みを発揮できる出番を意図的につくり、それを認め、価値付ける。</p> <p>②子どもの活躍の写真や感想文等を学級に掲示するなど、授業も含めた、学校生活全般において、友達の良さや頑張りに気付くことができるような環境を整える。</p>	<p>①学級で行う活動や行事では、常に集団としての目標を設定する。また、役割分担、練習などを可能な限り子どもに任せて、自主性を重んじた上で集団としての目標が達成できるような工夫をする。</p> <p>②異学年交流や異校種間交流、地域との交流等ができる機会を設定し、いつもとは違った環境の中で、個性を発揮したり、認められたりする場면을意図的につくる。</p>
<b>指導のポイント</b>	<p>①教員の個性を生かした話ができることよい。また、教員自らがネガティブな感情や失敗談などを話すことで、子どもたちも同じように自己開示がしやすくなる。</p> <p>②全員の前、グループ内、ペアなど、いつも同じになることが無いように、場面設定を工夫する。サイコロトーク等、構成的グループエンカウターの手法を取り入れると自己開示しやすくなる。</p> <p>③教員が指示するよりも、子どもに考えさせる方がよい。また、決めたルールやマナーが守られているかを振り返らせる場面も定期的につくるとよい。</p>	<p>①日ごろからの子ども理解を深め、一人一人の特徴を把握しておき、常に「生かし所」を考えておく。授業では、机間巡視を大切にし、その子どもならではの考えを取り上げ、認めていく。ただし、集団の前で認められるのが苦手な子どもには、個別に行うなどの配慮を忘れない。</p> <p>②上記の働きかけ以外にも、例えば授業で使う学習カード等に、頑張っていた人、活躍した人を毎回記入させたり、帰りの短学活で本日の MVP を発表させたりするなど、日ごろから自分以外の他者への意識を持たせるようにする。</p>	<p>①集団としての目標達成のためには、個々の力を高め、その力を結集させていく必要があることを常に意識させる。教員はできるだけ黒子に徹し、子どもの活動を見守る。</p> <p>②上級生は、自らの体験に基づいて自信をもって行動させ、下級生の憧れの存在となるようにしたい。地域の方々と交流する場面においては、事前の役割分担や活動内容をできるだけ明確にしておく。</p>
<b>期待できる効果(子どもの変容)</b>	<p>○教員の自己開示により、「自分も話していいんだ」という安心感が得られ、自分の思いや考えを進んで話すことができるようになる。</p> <p>○自己表現が苦手な子どもも、機会を重ねるごとに自己表現に慣れ、自分を出せるようになる。また、仲間の話を聞くことで、仲間の個性だけでなく、自分の個性についても改めて気づきが生まれる。</p> <p>○自分の話を聞いてもらえる、伝えてもいいんだという安心感が得られ、友達の意見を聞くこと、理解することの大切さに気づき、自分を表現する方法を見つけ出すことができる。</p>	<p>○教員が率先して良さや強みを価値付けることで、子どもが互いの個性を認め合おうとする雰囲気が生まれる。</p> <p>○友達の頑張りがや良さを共有する機会が増えることで、自然に笑顔になる機会も増える。また、認められたと感じた子どもも満ちたりた気持ちになり、自然と笑顔になる。</p>	<p>○集団で協力して楽しんだり、困難を乗り越えたりする体験を通して、達成感や、自分とその集団にいることの喜びを味わうことができ、感動の笑顔になれる。</p> <p>○自分たちの行動が誰かの役に立っているという自己有用感を味わうことができ、自然に笑顔になれる。また、年少者に対して優しく関わられるようになる。下級生は頼りになる上級生の存在によって安心し、今後の学校生活に対する期待が高まり、笑顔が見られるようになる。</p>